

家業の自営漁業を継ぐことを目指すBさんの場合

検討

年齢 : 30 歳
家族構成 : 独身
漁業経験 : 親の操業の手伝い経験有
希望 : 同居する親が自営漁業の引退を検討しはじめたので跡を継ぎたい
課題 : 漁船・漁具が老朽化 → ①段階的に更新していく必要有
漁業技術が不十分 → ②親から技術継承を受ける必要有



準備

1. 相談

ワンストップ窓口に電話
将来設計、興味があること、不安なこと を相談
→自身の漁村の特徴、各種支援制度の内容を聞く



2. 決断 (相談から3か月後)

親の跡継ぎとして漁師になることを決意
→親元での2年間の研修→自営漁業者として独立することを目指す

行動

3. 独立型研修 (相談から3か月後～2年3か月後) ※

→親の漁船に同乗して漁業技術指導を受ける
→地域の特性を活かした「もうかる漁業」にも取り組んでみる
※消耗漁具 (22万円/年まで)、船舶免許取得費等の支援有

【収入】

親の水揚げ : 一部を給与として受ける
自身の水揚げ : 潜り漁業で～20万円程度/月を目指す!



4. 自営独立 (相談から2年3か月後～7年3か月後)

親が引退し、Bさん主導での操業を開始
→認定新規漁業者になり補助事業を活用して漁船・漁具更新
→やる気と能力のある仲間とグループで補助事業を活用し
所得向上を目指す

【収入】 自立給付金 : 10万円/月

自身の水揚げ : 複数の漁業種類を組み合わせ
合わせて60万円/月を目指す!